

# 石神中学校だより19号

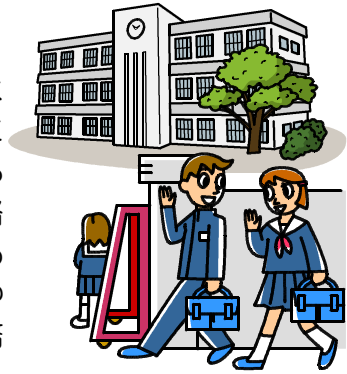
発行日：令和3年2月 1日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

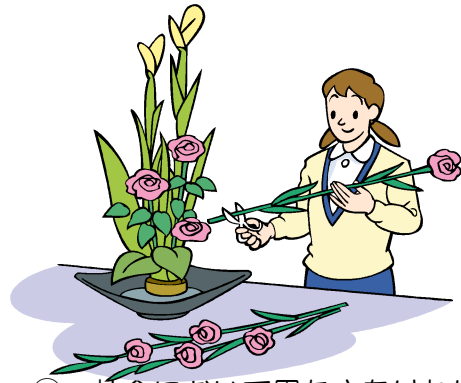
## 特集～高等学校受験いろいろ～

### 〈高等学校あれこれ〉

高等学校とは。一般的な略称は高校。学校教育法第50条により、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする学校となっている。簡単に言うと中学校卒業後の最も多い進路となっている。高等学校という名称であるが、行われるのはあくまで後期中等教育である。修業年限は全日制は3年。定時制や通信制は3年以上（4年が多い）となっている。高等学校は義務教育ではないので、進学する義務はない。とはいえ、企業の多くは高卒以上の学歴を要求してくるため、高校へ進学する者は非常に多いが、近年においては高卒であっても定職に就かない（または就けない）若者が増加しており、社会問題の一つとなっている。入学できる者は、学校教育法第57条において中学校またはこれに準ずる学校（特別支援学校の中学部など）を卒業した者若しくは中等教育学校の前期課程を修了した者、または文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者である。日本では一般的には4月入学で3月卒業である。



### 〈高等学校教育の目的・目標〉（文科省）



- 1 高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育や専門教育を施すことを目的としている（学校教育法第50条）。  
また、その目標は、
  - 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと
  - 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること
  - 個性の確立に努めるとともに、社会について広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこととされている（学校教育法第51条）。
- 2 卒業は、大学等の高等教育機関への入学に必要な基礎資格となるとともに、様々な職業分野における資格試験において受験に必要な基礎資格となっている。
- 3 高等学校においては、上記のような目的・目標を踏まえ、各学校における各教科・科目に関する教育活動や特別活動、総合的な学習の時間、学校外活動などを通じて、その実現を目指している。

〈自分が目指す高校の特色や授業内容、取得できる資格など、十分な情報収集をしてください〉

## ＜高校受験今昔話＞

1月後半に入り、3年生は進路決定に向けて正念場を迎えています。すでに進路の方向性が決まり、願書の出願時期に入りました。多くの方が高等学校の入学選抜試験を控えています。自らの力で進路を切り拓かなくてはなりません、まずは健康管理に努めて万全の体調で試験に臨むことが大切です。今、公立高等学校の入学選抜で五教科の学科試験を行っている都道府県が多いのですが、1960年代前半頃まではほとんどの都道府県で九教科の学科試験が行われていました。音楽、美術、保健体育、技術・家庭の実技教科の学科試験も行われていたのです。今のように五教科による学科試験が行われるようになった背景には、過剰な受験競争による受験生の負担軽減や高等学校間の受験倍率格差の改善などを目的にした制度改革がありました。その結果、公立高等学校受験の様相が大きく変わったのですが、それと同時に中学校での実技教科の授業内容にも大きな変化がありました。九教科の入学選抜試験を経験した方に話を聞くと、中学校の各授業で覚えなくてはならない知識量は今よりずいぶん多かったようです。時代と共に「学習」の内容も変わり、それにもなって高等学校入学選抜も様変わりしました。この「受験」という試練を乗り越えることで、一回り大きく成長するという現実、今も昔もかわりません。生徒たちには、今の努力がいつかきっと成果として表れることを信じて頑張りたいと思います。



## ＜なぜ、面接はあるの＞

県立・私立の高校や国立の高専など、面接を課す学校が増えています。中学校から各学校に提出される調査書等の情報だけでは計り知れない内容があるからだと思います。入学希望者に直接会って、その希望の度合いや入学後の意気込み、学校の教育方針や校風が合うのかを知りたいのです。面接で必ずと言って良いほど聞かれるのが「志望の動機」です。□この学校を受験したいと思ったのは、どんな理由からですか。□この学校に入学したいという動機は何ですか。自分は「なぜこの学校を選んだのか。この学校の魅力は何なのか。この学校で学びたいことは何か。将来に向けてこの学校でやりたいことは何か」など、自分の言葉でしっかり、はっきりと言えるようにしておきたいものです。普段より相手の目を見て丁寧に話すことを心がけていることも重要ですね。

## ～ねがい～

## 「部活動の思い出（高校編）」

中学校の時は野球部に所属していましたが、高校に入学して、すぐに美術部に入りました。理由は簡単です。野球以上に美術が好きだったからです。高校の担任の先生も美術科担当だったこともあり、展覧会出品前になると制作が追いつかず、授業を受けずに美術室で制作に没頭したこともありました。白いキャンバスに油絵の具をテレピン油やリンシードオイル等でうすめたり、溶かしたりしながら自分のスタイルで自由に描く世界、彫刻や工芸など立体の空間表現など、制作する人にしかわからない芸術の世界を知ることにも出来ました。自分の思い描く通りに表現したい気持ちは、空腹や疲れを感じさせず、何時間も制作に向かわせました。おそらくこれほど集中し、考えながら取り組むことは、小学校、中学校時代には無かったことだと思います。高校に行くのが楽しくてしょうがない3年間でした。高校生になると大学受験のために部活動に入らない人がいることを聞きます。それも選択の一つかも知れませんが、高校で学ぶ教科の学習以外に集中できるスポーツ、音楽、美術、演劇など、今までに出会わなかった分野を知ること、体験することが出来る高校での部活動は、とてもいいものです。自分に合う部活動を探して入部し、活躍して欲しいと思います。私の場合は、高校時代の部活動が大学受験に繋がり、今の仕事になってしまいました。（校長より）



＜お知らせ＞ 新型コロナウイルスによる感染拡大防止に伴い、来校者の皆様には、マスク、検温、消毒等でご不便とご迷惑をおかけしています。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

